

## フタフー長井線の存続に向けて

平成27年6月2日の総務厚生常任委員協議会において山形鉄道株の経営改善に向けた取り組みについての説明を受けた。

### 現在の経営状況は

人口減少・少子化等の影響により利用人数はピーク時の約42・6%まで減少した。施設の老朽化に伴う改修費の増加により、沿線の2市2町の財政支援額の大幅な拡大が予想される。

### 今後の対応は

※上下分離方式を盛り込む鉄道事業再構築事業の認定に向けた取り組みを行う。

採択に向けては沿線の2市2町及び山形県との関係者による地域公共交通網形成計画を策定する必要がある。策定に要する経費は沿線自治体が負担する。

### 質疑

#### 将来に向けた改善策は

**委員** ※デュアルモードビークルの導入など利用者の減少に歯止めをかけるような改善策はあるのか。

**当局** これまでも経営改善は行ってきたが、利用者増などは見込めない。沿線2市2町での温度差もある。しかし本町としては存続に向けて、現時点ではこの方法で取り組むしかないと判断している。

※上下分離方式  
管理と運行を行う組織を分離し、会計を独立させる方式

※デュアルモードビークル  
道路上、鉄道軌道上をともに走行できる車両



地域の盛り上がり期待

### 議会広報特別委員会

## 町民に「伝わる」までが

## 議会の仕事

議会だより編集の研修会に出席

―議会広報の向上発展が目的―

5月22日、「議会広報研修会」が山形市で行われました。講師は、埼玉県コミュニティセンター理事長で、広報・編集コンサルタントでもある芳野政明氏でした。

―テーマは「読まれ

伝わる議会報の

基本と編集技術」―

講義は、川西町や庄内町など県内12の町で実際に発行された「議会広報」を検証し考察する形ですすめられました。

―研修会報告―



各町の自信作です

―おすびに―

議会広報の役割は、政策が決定するまでの経過や、議事の内容をしっかりと町民に知らせることであり、町民に「伝わる」までが議会の仕事。わかりやすく、親しみのある、「読まれる」広報を編集するための基本と技術を学びました。

表紙

### ―77年の伝統―

### 蚕桑小学校すもう大会

蚕桑小に土俵ができたのは77年前の昭和13年、教育方針も変化する中で大切に受け継がれてきました。

勝って喜びに胸をはり、また、負けた悔しさに涙を流す姿もみられ、「大会で見せたがんばりを忘れず、かしく、たくましく、やさしい大人になってほしい」と竹田典克校長先生の言葉で、元氣なたたかいは幕を閉じました。

